

# 「山さ、ございん」「海さ、ございん」 プロジェクトについて

川廷 昌弘

南三陸町地域資源プラットフォーム設立準備委員

2016/10/25

# 「山さ、ございん」プロジェクト実行委員会 (2015/7/9設立)



「山さ、ございん」プロジェクトとは

南三陸杉の良さを活かし  
デザイン性の高い内装材、家具、家づくりの  
糸口を見つけ産業振興の筋道をつけていく

そのためのストーリー発信のプラットフォームとなり  
森里海連環の物語を山から始めて  
南三陸杉の発信、ファン作りを目指し  
全国の人に来てもらう機会を考えていく



委員長  
佐藤久一郎(南三陸森林組合組合長)

委員  
高橋長晴(南三陸山の会会長)  
小野寺邦夫(丸平木材代表取締役)  
佐藤太一(佐久専務取締役)  
鈴木卓也(ネイチャーセンター友の会代表)  
工藤真弓(上山八幡宮禰宜)  
山内明美(東北開墾理事)  
吉川由美(ダ・ハプランニングワーク代表)  
川廷昌弘(博報堂・CEPAジャパン・写真家)

事務局  
山内日出夫(南三陸森林管理協議会)  
佐藤太一(南三陸森林管理協議会)  
宮本育昌(CEPAジャパン)

オブザーバー 南三陸町産業振興課

# 「山さ、ございん」(ものづくり)南三陸杉デザイン塾

活動目的: 南三陸の山の魅力をデザインで輝かせる





# 「山さ、ございん」(ものがたり) 自然と暮らしの物語

## 活動目的: 南三陸の山の魅力を物語で輝かせる

### プログラム1 「火防線プロジェクト」

「火防線」とは、尾根の木々を刈り払って、山火事の延焼を防止する役割と、様々な生きものが活用できるスペースを作るプロジェクト。生きものとはイヌワシから人間まで。町の境界線である分水嶺約60kmを踏破できる尾根道を作る。



### プログラム2 「イヌワシ生息環境再生プロジェクト」

翁倉山は1955年に日本で戦後初めてイヌワシの繁殖が確認され、国の天然記念物に指定された日本を代表する繁殖地。しかし2011年以降、存在が確認されていないため、周辺の森林を管轄する行政、所有者、ナチュラリスト、NPOなど多様な主体が協力し、イヌワシのつがい繁殖できる自然環境を再生する。



### プログラム3 「チェック・ツリー・ツアー」(FSCジャパン監修)

国際森林認証FSC「原則と基準の10原則」のチェックシートを持って、認証取得した山を歩き一般参加者が自己診断。最後に振り返りを行い、認証内容と林業への正しい理解、利用者と森林管理者との交流を深める。



### プログラム4 「トルルを探せ」

昔話が多数残る南三陸。山の豊かな物語の一つとして、町の若者達がソーシャルメディア等で伝承し始めた山の精霊を追いかける。



# 「海さ、ございん」プロジェクト実行委員会 (2016/2/6設立)



「海さ、ございん」プロジェクトとは

南三陸の海の幸の良さを活かし  
未来につながる産業振興の筋道をつけていく

そのためのストーリー発信のプラットフォームとなり  
森里海連環の物語を海から始める

そして、南三陸の海の恵みの発信ファンづくりを目指し  
全国の人に来てもらう機会を考える取り組みです

南三陸  
戸倉っかき



ASC-AMITA-F-1001

委員長

佐々木憲雄(志津川支所運営委員長)

委員

後藤清広(戸倉出張所カキ部会長)

佐々木幸一(戸倉出張所カキ副部会長)

佐藤正浩(戸倉出張所銀鮭副部会長)

阿部寿一(丸壽阿部商店代表取締役専務)

吉田信吾(カネキ吉田商店代表取締役)

須藤勉(あおしま荘)

阿部民子(たみこの海パック)

三浦さき子(慶明丸)

渡辺公子(ちょこっと)

川廷昌弘(博報堂・CEPAジャパン・写真家)

事務局

岩崎幸雄(宮城県漁協本所経済事業部長)

阿部富士夫(志津川支所 支所長代理)

星昌孝(志津川支所 販売主任)

宮本育昌(CEPAジャパン)

オブザーバー 南三陸町産業振興課



# 「海さ、ございん」(ものづくり)ASCブランド

戸倉小学校は、宮城県の「ふるさと教育」の研究指定校として、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る子どもたちの育成」を合い言葉に長年取り組まれてきました。

この精神が地域と学校の結びつきを固いものにし、当時子ども達は保護者となって地域を支える人材となっています。

未来を担うこの牡蠣には、そんな想いを託して名付けます。



# 「山さ、ございん」「海さ、ございん」プロジェクト合同開催

10月21日(金)

「山さ、ございん」「海さ、ございん」プロジェクトの合同実行委員会を初開催。

「南三陸戸倉っこかき」が、1年でプリップリに美味しく成長するのは、FSC「南三陸杉」を始め、多くの山に人の手が入り豊かな地下水が海に注ぐからではないかといった話や、

南三陸で生きるための選択をしてきたという言葉を始め、  
「森・里・海・ひと いのちめぐるまち 南三陸」ならではの、  
豊かな自然とそこに育まれた人の知恵を確認する素敵な会議となりました。

地域資源プラットフォーム設立に先行した形で議論されているように皆さん感じています。

この「山さ、ございん」「海さ、ございん」の取組み、そして「里」も加えた絵を、  
工藤真弓さんのイラストで制作してみようというアイデアが上がっています。

それが、町民のみなさん1人ひとりと、想いの共有ができるツールとなれば。